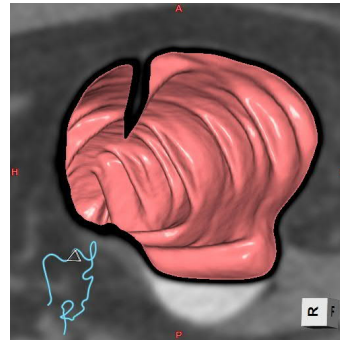
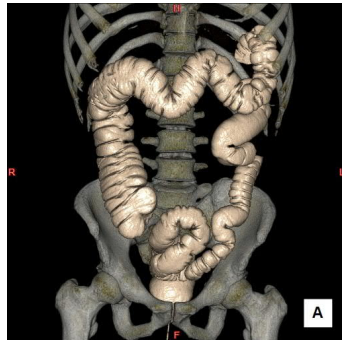


4-3. CT検査 ～大腸CT検査について～

大腸CT検査では、実際の内視鏡を挿入せずに、内視鏡検査に類似した大腸画像が得ることができ、大腸ポリープや腫瘍の診断を目的としています。



<大腸がんの症状>

男女とも大腸がんによる死亡率は、年々、増加傾向にあります。40代から徐々に死亡率が上昇します。（ただし、10代～30代でも大腸がんになる場合があります。）

早期ではほとんど自覚症状がないと言われますが、次の症状が続く場合は、一度病院を受診してください。

【主な症状】

- ・ 便に血が混ざる
- ・ 下痢
- ・ 便秘
- ・ 体重減少
- ・ 腹痛
- ・ 嘔吐

<大腸CTの特徴>

治療が必要となる6mm以上のポリープの診断能力は、大腸内視鏡とほぼ同等とされています。（ただし、平たいポリープは大腸内視鏡に比べて診断能力が低下します。）

- ・ 検査時間が短い
- ・ 内視鏡に比べて前処置の負担が少ない
- ・ 検査時の苦痛が少ない
- ・ 大腸以外の臓器の精査が可能

＜検査方法＞

- ・ 検査前日から前処置として、腸管洗浄剤および下剤を内服していただき、腸をきれいにします。さらに、造影剤も内服することで、残渣と病変の区別が可能となり、検査の精度が向上します。
- ・ 検査用の下着に着替えた後、ＣＴの寝台に横向きに寝ていただきます。痔など肛門疾患をお持ちの方は、検査前にその旨をスタッフにお伝えください。
- ・ 大腸粘膜がよく観察できるように、肛門に挿入したチューブから炭酸ガスを入れて大腸を広げます。ガスの注入に伴って膨満感、排便感が生じることがあります。腹痛や嘔気など、変わりがありましたら、看護師または診療放射線技師にお伝えください。
- ・ 撮影は、「仰向け」と「うつ伏せ」の２つの体位で行います。
- ・ 画像を確認後、チューブを抜いて検査終了となります。
 - ※ ＣＴ検査室に入ってから、約 15 ～ 20 分で検査終了となりますが、多少前後することがあります。
 - ※ 検査中、お腹の排便感や膨満感が生じることがありますが、炭酸ガスは空気の 100 倍以上早く吸収されます。検査が終わると急速にお腹の不快感は消失していきます。不快感が継続する場合には、お近くのスタッフへお声掛けください。

＜検査の注意点＞

- ・ 検査前の問診で、問題があった場合、医師の判断で検査をお断りすることがあります。
- ・ 検査前日の就寝の際、眠剤の使用はお控えください。
- ・ 当日は検査まで絶食となっていますが、**定期の薬はお飲みください。**ただし、インシュリンや**糖尿病の薬は飲まないでください。**
- ・ 造影剤を使用するため、まれにアレルギー反応が出ることがあります。
- ・ 非常にまれに、合併症として腸管穿孔や迷走神経反射などが報告されていますが、その頻度は非常に低く安全性の高い検査です。もし、検査中や検査後に腹痛、嘔気、冷や汗、めまいなど変わりがあれば、スタッフに遠慮なくお伝えください。
- ・ ほかに大腸検査と同様に前処置（検査前に腸をきれいにすること）が上手くできていない場合には、正確な検査が困難になります。
- ・ 検査の性質上、早期の表面型大腸癌や 6mm 以下のポリープを見つける能力は、内視鏡検査に劣り、細胞の検査（生検）やポリープ切除などの治療はできません。生検や治療には後日、内視鏡検査が必要です。

＜前処置について＞

前処置は検査前日から開始します。消化のよい物を食べてください。

前処置の詳細は、検査予約時に放射線科にて説明します。

【検査前日】

水分は多めに飲んでください。（お茶やジュースでも大丈夫です）

- ①朝食後にお薬 30ml（造影剤）を飲む
- ②昼食後にお薬 30ml（造影剤）を飲む
- ③夕食後にお薬 30ml（造影剤）を飲む
- ④就寝前にお薬 400ml を飲む（腸管洗浄液＋造影剤＋下剤）



【検査当日】

水分の摂取は、水のみにしてください。

- ⑤起床後にお薬 400ml を飲む（腸管洗浄液＋造影剤＋下剤）

※ 検査開始まで何も食べないでください。

（ただし、水はいくら飲んでもかまいません）